釣れ釣れなるままに

２００７年思い出の釣行記 PART.　１

魚釣りマボ

岩見沢釣遊会第１回大会

☆開 催 日　　平成１９年４月２２日

☆開催場所　　須築港～瀬棚港

☆入釣場所　　中歌漁港右平盤

☆天　　候　　晴れ、微風、波２．５ｍ後２ｍ

☆釣　　果	アブラコ	３７５	㎜	①／２
	ホッケ	３６２	㎜	②／１８
	マコガレイ	３３２	㎜	①／１
	カジカ	２８０	㎜	①／１
	タナゴ	２５０	㎜	３
	５匹重量	２５８	０ｇ	
☆成　　績	合計点数	９９５	点	
	成績	５	位	
	持ち点	５	点	
	累計点	５	(⑤)	

魚拓を眺めながら

人事異動のために、またまた転勤を余儀なくされた。上司が奈井江町出身ということで、奈井江町の勤め先を打診されたが断る訳にはいくはずもなく、砂川の隣町に引っ越しせねばならなくなった。今までとは毛色の違う職場環境ではあるが、地域に根ざしながら与えられた職務を着実に果たしていこうと決意を新たにしている。しかし、自分の居場所を見つけるために当面は辛抱しなければならないだろう。唯一の道楽である釣りに今年は何回行くことができるのだろうか。

引っ越し荷物を整理していると、前任地の砂川では一度も日の目を見ることはなかった魚拓が出て来た。これは、芦別で勤務した時にしたためていたものである。魚拓はズブの素人で自己流ではあるが、それなりに気に入っていたもので、中には真鮒３５．５㎝、ニジマス５７．２㎝、アブラコ５３．２㎝、タカノハ４３．６㎝など自分の最長記録物は居間の鴨居に掛けて眺めながら、川や海に思いを馳せていたのである。砂川での３年間にはカジカやシャケ、アメマスなど記録を塗り替えたものもあったのだが魚拓にする機会もなく、荷物の中に紛れ込んだままにしておいたのだ。折しも、貴誌「北海道のつり」で大場雅文氏による魚拓教室が連載されたので、さらに記録を伸ばした新たな魚拓を刷りたいものだと、転居先の借家にも飾ってみた。はたしてその機会に恵まれることはあるのだろうか。

♪後の祭り

兎にも角にも、転任後の忙しさの合間を縫って、何とか岩見沢釣遊会第１回大会には参加することができた。出発当日、岩見沢の自宅に避難させておいた釣り道具を引っ張り出し、仕掛けは古い物を流用した。エサのサンマを買いにスーパーに立ち寄ると、仲間の山岸氏とばったり出会った。彼の買い物カゴを見ると、ホッキ貝、アサリ貝、マグロの赤身等が収められているが、サンマがないと捜している。その店頭で唯一残っていたサンマのパックを私が購入してしまったらしい。

半年ぶりの釣りとなる。ワイワイと過去の大会での釣り談義に花を咲かせてお祭り騒ぎをしていると、開始場所である須築漁港に到着していた。目指す釣り場はまもなくである。私は、この界隈では実績のある吹込漁港周辺から島歌川を入釣場所と決定していた。

須築漁港では山岸、谷口氏の２名が下り立ち、暗い漁港の奥の方へと姿をくらました。後は軒並み通過していく。吹込の平盤にギョギョライトの明かりが見えなければ一緒に下りましょうと堀内氏と打合せをしながらドアに向かう。しかし、見えてきたのは柵内の湾洞であった。酔っぱらい眼で見ていたためか、いつの間にか吹込も島歌川も通過してしまったらしい。それを悔やんでみても後の祭りである。

♪後の祭りよ♪

それで、第２のねらいとしていた中歌くの字平盤（B）に入ることにする。入釣した経験はなく、地図上でしか知り得ないので不安に思っていると、舟揚場への下り際に堀内氏から「そのカーブの手前がくの字平盤だよ」と教えていただいた。思ったより波が高く、低いサラシ平盤のために、それらしきものは見当たらない。幸い舟揚場にカジカを狙って関口氏（北のつり会）がいたので尋ねてみる。「くの字平盤は波の下で、ここからでははっきり分からないが、大きな波飛沫が打ち上がっている手前にある。現在は乗ることはできないでしょう」とおっしゃる。一旦、荷物を舟揚場に置き、進んでみると、磯際に大きな岩がゴロゴロとしており、その先に波の上に頭を出した岩が所々に見える。低い波かぶりの平盤を先に進んでみると、先端は無理だが、手前の出っ張りで何とか竿を出すことができそうである。

今度は中歌漁港右についた大きな平盤（C）まで歩いてみる。ここも低い平盤ではあるが、漁港や沖防波堤に囲まれて波は比較的穏やかである。先端に行ってみると、仲間の前野氏が準備を終えて、竿先を見つめている。その隣に釣り場を決定し、荷物を取りに戻った。しかし、くの字平盤には一度は下りてみたかったので、少しの間平盤の根元で竿を出してみることにした。打ち上がった波が足下を洗うために、一カ所あった低く小さな岩の上にリュック、竿ケース、バッカン、仕掛け入れ等、全ての荷物を縦に積み重ねる。一番下になったリュックには波が被さるが、上の方は何とか無事である。あずましくないこと

この上ないが、ようやく第１投を打ち終えてから御神酒を海に注ぎ、自分もグビッと一気に呷る。縦に積み重なった荷物で準備に手間取るために、竿先を見続けていることができないので鈴をつけた。鈴をつけると竿を一気に煽ったときに竿先に道糸が絡み付いて魚を取り逃がすこともあるのだが、この状態ではやむを得ない。２本目の準備に手間取っていると、背後でその鈴がチリチリと鳴った。３０㎝程のローソクボッケが上がった。その後もホッケのバタバタとしたアタリは続くがなかなかハリ掛かりしない。何とかロウソクボッケを４本手にしたところで、遠投していた２５号竿にカジカ２８㎝が来た。小さいながら２魚種５匹が揃ってまずは一安心。その後タナゴが来たがこれは必要がない。タナゴはアタリも鮮明で引きも強くて釣趣はあるが旨い魚ではないと思っている。

朝方には治まるといっていた波が益々高くなり、時折来るウネリのために、荷物が流されそうになる。ここは諦めて前野氏の所へと移動することにした。辺りの風景を収めようと購入したてのデジカメを取り出したが、一番下に置いたリュックの中だったために、水が入り込んで使用不能となっていた。ビニル袋に入れておけばよかったと悔やんだが、フッと美空ひばりが歌った「お祭りマンボ」が口をついて出た。

「おじさんおじさん大変だ
潮にリュックが浸かっている
デジカメ濡れて故障する
何を言ってもピーヒャララ
何を聞いてもトンツクツ
ワッショイワッショイ
ワッショイワッショイ
　ソーレソレソレお祭りだ」

トンツクだったかテンツクだったかはっきりしないが、確かに、ホッケのアタリはバタバタと続いた。そして、お祭りのような釣れ方ではなかったが、「いくら泣いても返らない。いくら泣いても♪あーとーのーまーつーりーよ～～～～～♪♪」

祭りの後は華麗に

中歌漁港右平盤で前野氏の横に並んで竿を出した時には辺りが薄明るくなっていた。前野氏は根掛かりしない場所を一カ所だけ確認したようで、そこを集中的に攻めている。ホッケは順調で、アブラコも来たが型は小さいようだ。しかし、攻めているうちに、必ず大アブラコや大クロガシラが食ってくると粘り強くネット仕掛けでバクダンを打ち続けている。

私にもホッケのアタリは頻繁に出るものの小型なのかハリ掛かりしない。たまに釣れるのは３０㎝ほどのローソクボッケで、２０㎝ほどのものまで混ざってくる始末である。小型のホッケが食えないようにと、全てのハリに大ぶりのカツオをつけて遠近投げ分けて辛抱強く待っていると、ようやくホッケとは違う竿を押さえ込むようなアタリが出た。１０

０ｍほど先にあるサラシ根の手前で潮が渦になって巻いている所に打ち込んでいたものである。首振りダンスをしながらアブラコ３８㎝が上がってきた。ようやくまともな魚が上がったので、フラシに入れてエンカマにつける。

目の前にある離れ岩の右に打ち込む。初めて竿を持ち上げるアタリがあり、大物と予感するが２５㎝ほどのタナゴだった。近投の竿にクッ、クッと竿を押さえ込むアタリがあり、その後道糸がふけたので上げてみると３３㎝のクロガシラだった。正面に遠投した竿にも何度かよいアタリがあるのだが、途中にある高い根に潜られてしまう。竿を操っているうちに３５㎝ほどのホッケなら抜けてきた。抜けてこないようなものは、多分大アブラコや大クロガシラなのだろうと勝手に思いこんでいるが、実のところはホッケなのかもしれない。３時方向に黒々と広がる横根の先に遠投をかけるが、これも同じである。

後から入釣してきた金漁会の３名が入り江でホッケを釣っている。１人１本の竿を丁寧に扱って、上手にホッケを釣っている。既に漁港でカジカもアブラコも上げており、余裕の釣りのようである。

９時には上がると言っていた前野氏が片付け始めた。そして、彼が最後に残した竿に手を掛けたようとした途端に大きなアタリが出て、竿を大きく曲げながら慎重に取り込んでいる。バタバタとクロガシラ３８㎝があがった。時計を見ると９時を少し回っていた。辛抱強く打ち込んでいた甲斐があったというものだろう。よく見るとマコガレイであり、私のものも確認してみるとマコガレイだった。

イカゴロ６０本とイワムシは全て使い切り、カツオやエビは余してしまった。サンマは結局一切れも使わなかった。締め切り間際になって、使っていないイソメを房掛けにして投げ込んだが、何も起こらなかった。

この平盤に入った時に、白い買い物袋一つ、オキアミを入れるビニル袋一つが目立っていたが、最後にそれを回収した時には、その広い平盤の上にはゴミらしいものは何ひとつ落ちていなかった。今日の祭りはマナーのよい釣り人ばかりで、気持ちよく釣り場を後にすることができた。

審査結果は

審査結果

優　　勝	堀内正博	１０１８点	（アカハラ３９６㎜+ホッケ　３７８㎜+２４４０ｇ）	瀬棚漁港
準 優 勝	吉井　博	１０１３点	（ホッケ　４０７㎜+カジカ　３２０㎜+２８６０ｇ）	オホン泊
３　　位	前野達志	１０１１点	（カレイ　３８０㎜+ホッケ　３７７㎜+２５４０ｇ）	中歌港右
４　　位	嵐　光博	１０００点	（ホッケ　３９７㎜+アブラコ３６１㎜+２４２０ｇ）	中歌港左
５　　位	鹿島釣狂	９９５点	（アブラコ３７５㎜+ホッケ　３６２㎜+２５８０ｇ）	中歌港右

であった。優勝した堀内氏がしきりに「ごめんなさいね」を連発する。予定していた吹込を通り過ぎてしまったので最内川でアカハラ狙いに切り替えたが、現地に到着してみると、その周辺は大会の釣り人で満杯だった。しかたなく、瀬棚港内でホッケやアカハラを釣ったが大物には恵まれなかったので、彼にとっては予想外の優勝だったらしい。成績表を何度も見ながら計算し、間違いではないのかと確認している。接戦の末の優勝だったのでうれしさも倍増したのだろう。堀内氏の優勝から私の５位までの差はわずか２３点であった。誰もが身長があと２㎝あれば逆転優勝だったと思ってもそれはやはり「♪あーとーのーまーつーりーよ～～～～～♪♪」

【つれづれ】

自宅に戻ってから、「お祭りマンボ」の歌詞を女房に尋ねてみると、合唱サークルで使った楽譜を手渡してくれた。歌詞を見ながら、私を含め釣り会のメンバーを思い浮かべて替え歌を作ってみた。

『魚釣りマンボ』 作詞・作曲：原　六朗　　替え歌：鹿島釣狂

私の隣のおじさんは　北海生まれで　チャキチャキ道産子
魚釣り騒ぎが大好きで　ヘッドランプにそろいのチョッキ
雨が降ろうが　ヤリが降ろうが　朝から晩まで　釣り竿かついで
ビュンビュンビュンビュン　ビュンビュンビュンビュン　ライトをつけろ　バクダン撒いておくれ
ドッポンドッポン　ドッポンドッポン　ソーレソレソレ　魚釣りだ
おじさん　おじさん　大変だ　カラスがイソメを　つついてる
獲物にカモメが　群がった
何を言っても　ビュンビュンビュン　何を聞いても　ドッポンポン
ビュンビュンビュンビュン　ドッポンドッポン　ソーレソレソレ　魚釣りだ

そのまた隣のおばさんも　北海育ちで　チョッピリ美人で
魚釣り騒ぎが大好きで　イキな素足に　胴長はいて
雨が降ろうが　ヤリが降ろうが　朝から晩まで　リールを巻いて
キリキリキリキリ　キリキリキリキリ　カジカとアブラコ　ホッケにクロガシラ
バッシャンバッシャン　ドタドタドタドタ　ソーレソレソレ　魚釣りだ
おばさん　おばさん　大変だ　狐がリュックを開けちゃった
こっそりおにぎり　ねらってる
何を言っても　バッシャンシャン　何を聞いても　ドタドタドン
バッシャンバッシャン　ドタドタドタドタ　ソーレソレソレ　魚釣りだ

魚釣りすんで　日が暮れて　冷たい風の　吹く夜は
腰を痛めた　おじさんと　腹を空かせた　おばさんの
ほんにせつない　ため息ばかり
いくら泣いても　若くない　いくら泣いても　後の祭りよ